

泉地域ビジョン

改定版

令和8(2026)年3月
泉自治区
(広島県三原市久井町泉)

< 目 次 >

序章 計画策定にあたって	1
1 地域ビジョン策定の目的	1
2 地域ビジョンの役割	2
3 地域ビジョン改定の取組	2
第1章 地区の概要	3
1 位置	3
2 人口・世帯数	4
3 地区活動の状況	6
第2章 地区の魅力・資源と問題点・課題	10
1 地区の魅力・資源	10
2 地区の問題点・課題	11
第3章 地域ビジョン	13
1 地区の将来像	13
2 地区づくりの目標設定	13
3 地区づくりの体系	17
4 地区づくりの基本計画	18
5 計画の推進体制	30

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

泉地区は、美しい田園景観の広がる地区で、水田のほ場整備が完了するとともに2つの農事組合法人（以下、「農業法人」という）が設立され、農地の保全及び特徴のある農業が展開されています。また、地区の中央を南北に連絡する改良済みの市道が走っているほか、泉コミュニティホーム一帯に消防屯所や駐車場が整備され、地区中心地として機能しています。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区の活力が失われてきています。

こうした状況において、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区づくりに取り組むことが一段と重要になっています。こうした思いを全住民で共有するため、「いずみ」を連想させるとともに、1（いち）・2（に）・3（さん）とみんなと一緒に“一歩一歩” 歩み続け、未来に向かって泉自治区が大きく発展することを願い、令和元（2019）年から12月3日を「泉の日」と制定しています。

また、今後の地区づくりは、国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り入れ、将来世代が希望を持ち続けることができる持続可能な社会の実現に取り組む必要があります。

こうしたことを踏まえ、泉自治区では、平成27(2015)年3月に策定した「泉地区活性化計画」とその後の取組を踏まえて、新たに「泉地域ビジョン」を令和3(2021)年3月に策定し、新たな地区づくりを進めてきました。

しかし、令和元(2019)年末から始まった新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、様々な地区活動において実施環境が整わず、計画実施の遅れや未着手となる事業が多くなりました。

こうした状況も含め、社会経済情勢が現ビジョン策定時とは大きく変化したことから、本地区の現状を踏まえたビジョンへの見直しを図るため改定版の策定を行いました。

※ SDGs：持続可能な開発目標のことで平成27(2015)年の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、平成28(2016)年から令和12(2030)年までの国際目標です。貧困、飢餓、ジェンダー、教育、環境、経済成長、人権など、幅広いテーマをカバーしており、令和12(2030)年までの達成が目指されています。豊かさを追求しながら、地球環境問題に対処し、「誰一人取り残さないこと」が強調されています。わが国では、平成28(2016)年12月の「SDGs実施指針」において、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」とのビジョンが示されました。このビジョンの具体化に向けて、民間企業、地域社会、地方自治体が大きな役割を担うことが求められています。

2 地域ビジョンの役割

「泉地域ビジョン」は、泉自治区が中心となって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体、事業所などにおいて地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民、大学など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 地域ビジョン改定の取組

泉自治区では、各種団体の代表者などで構成する「泉地域ビジョン策定会議」を開催し、「泉地域ビジョン」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、全住民を対象とした泉地域ビジョン策定ワークショップ（意見交換会）を開催しました。

その後、ビジョン掲載事業の取組状況や本地区を取り巻く社会経済情勢の変化を踏まえ、ビジョンの改定に向けた令和6（2024）年度に住民・出身者アンケート調査や泉の未来を語るワークショップを開催し、新たに住民の皆さんや出身者の皆さんからの意見聴取を実施しました。

こうした住民等の皆さんの意見や「泉地域ビジョン」掲載事業の進捗状況や重要性等を再検討し、計画改定を行いました。

第1章 地区の概要

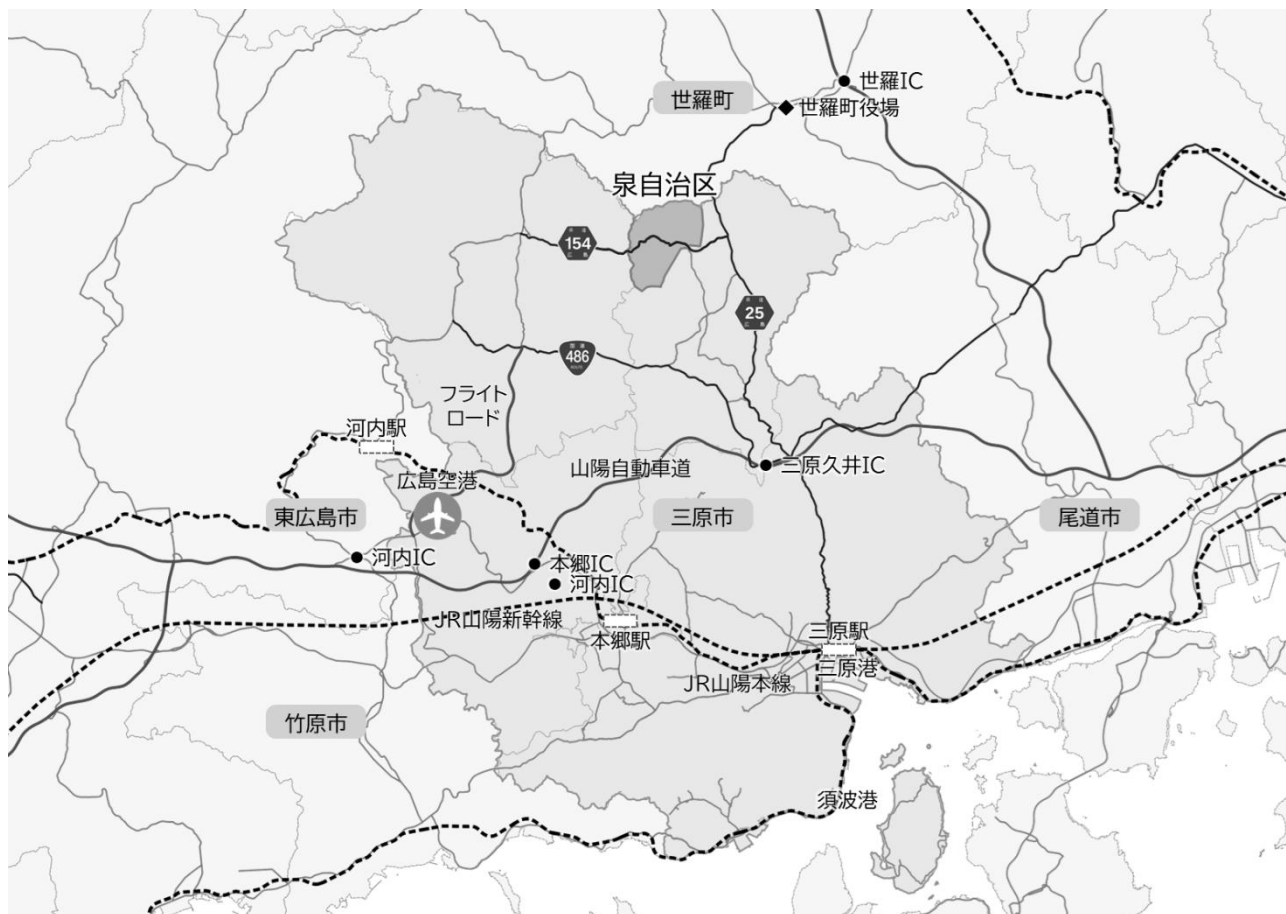
1 位置

本地区は、三原市久井地域の北西部に位置しています。

地区中心部（泉コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用したの所要時間は、久井支所まで約10分、三原市役所まで約40分となっています。また、スーパーや病院のある世羅町中心部まで約10分と近く、日常生活に関連する多くの機能を世羅町の中心部で行う住民が多くなっています。

また、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分、広島空港まで約25分です。

図 泉地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、令和7(2025)年で279人になっており、過去5年間で約12%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和7(2025)年で0～14歳は16人、15～64歳は117人、65歳以上は146人で、高齢化率は約52%になっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、過去5年間で各年齢層ともに減少しており、特に0～14歳、15～64歳の減少率が大きくなっています。

表 人口の推移

(単位：人、%)

区 分		実 数			増減数 (変化率)	
		H27(2015)年	R 2(2020)年	R 7(2025)年	R 2(2020)－ H27(2015)	R 7(2025)－ R 2(2020)
実 数	0～14歳	28	22	16	△6 (△21.4)	△6 (△27.3)
	15～64歳	168	141	117	△27 (△16.1)	△24 (△17.0)
	65歳以上	158	155	146	△3 (△1.9)	△9 (△5.8)
	合計	354	318	279	△36 (△10.2)	△39 (△12.3)
割 合	0～14歳	7.9	6.9	5.8	－	－
	15～64歳	47.5	44.3	41.9	－	－
	65歳以上	44.6	48.8	52.3	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、令和7(2025)年で136世帯になっており、過去5年間で4世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は令和7(2025)年で2.05人/世帯になっており、過去5年間で9.7%減少しています。

表 世帯数等の推移

(単位：世帯、人/世帯、%)

区 分	実 数			増減数 (変化率)	
	H27(2015)年	R 2(2020)年	R 7(2025)年	R 2(2020)－ H27(2015)	R 7(2025)－ R 2(2020)
世帯数	147	140	136	△7(△4.8)	△4(△2.9)
1世帯当たり人員	2.41	2.27	2.05	△0.14(△5.7)	△0.22(△9.7)

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）

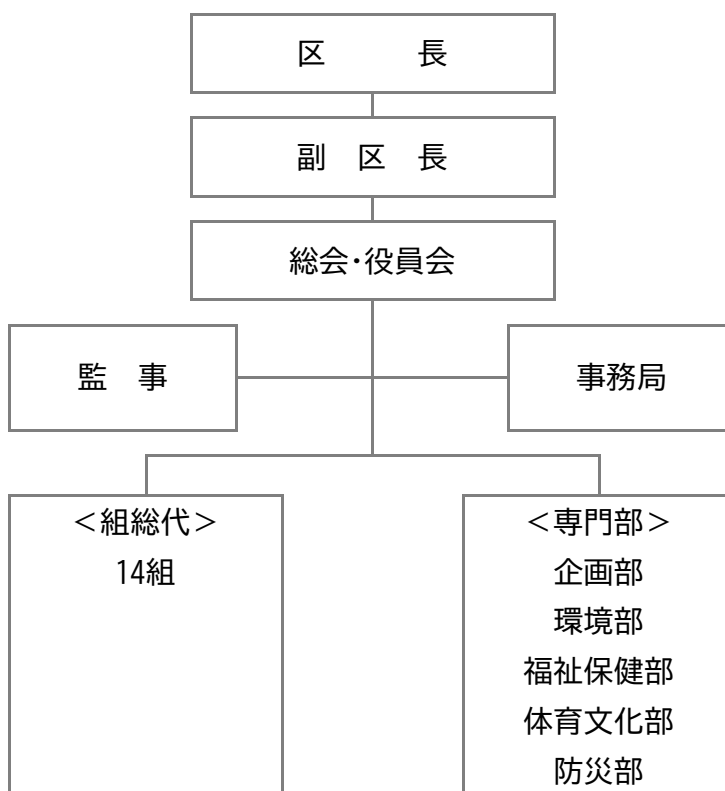
3 地区活動の状況

(1) 自治区などの団体

ア 泉自治区

泉自治区は、1組～13組及び13組イの14組で構成されており、組総代を通じて情報伝達を行っています。また、専門部を設置して各種事業に取り組んでいます。

図 泉自治区の組織



イ その他の団体

泉自治区と連携し活動を行っている主な団体とその活動状況は次のとおりです。

表 その他団体の活動状況

団体名	主な活動
泉勇志会	・夏祭り、秋祭り等のイベントへの参加
泉老人会	・健康づくり等
羽和泉地区社会福祉協議会	・ニコニコ会食、敬老会への協力、年末お餅の配布等
民生委員・児童委員	・高齢者・障害者・児童・母子世帯等の見守り、調査・実態把握、相談支援や各種行事への参加協力、自主的な地域福祉活動等
ふれあい・いきいきサロン運営グループ	・楽々貯筋クラブ（泉地区全体）、軽い体操で筋力の維持 ・あじさい会、おおたおサロン、たんぼぼ会、つくし会の4団体があり、小グループでのサロン活動
自主防災会	・自主防災対策の協議、防災意識啓発、防災訓練の実施、救急法講習等
地区消防団	・出初式、消防訓練の実施、火災予防広報活動等
公衆衛生推進協議会	・環境保全、環境学習、健康づくり、環境・健康募金活動等
農事組合法人	・いずみ、清流の郷泉の2法人 ・農地の保全・管理、米・野菜等の生産・販売、環境保全活動、農業体験の提供等

(2) 主な地区行事

本地区における年間の主な行事は、次のとおりです。

表 地区の年間行事の状況

月	行事・祭り	内 容
周年	ふれあいサポート推進事業 (見守り活動)	・一人暮らし高齢者の見守り活動
周年	ふれあい合同サロン (楽々貯筋クラブ活動)	・ストレッチ体操等(年間9回開催)
周年	サロン活動 (高齢者ふれあい活動)	・各組等によるサロンの開催
4月	自治区総会	・役員選任、前年度事業報告、前年度収支決算、今年度事業計画・収支予算書等審議
6月	環境美化活動	・市道等の一斉草刈り、空き缶、散乱ごみ追放キャンペーン
7月	ぎおん祭り	・久井稻生神社及び泉八幡神社で獅子舞・ぎおん踊りの奉納
8月	泉夏まつり	・盆踊り、ステージイベント、バザー
9月	泉敬老会	・敬老のお祝い(ステージイベント、会食等)
	環境美化活動	・コミュニティホーム、八幡神社周辺の掃除、市道等の一斉草刈り、空き缶、散乱ごみ追放キャンペーン
11月	秋祭り	・神楽、舞踊、銭太鼓の奉納、夜店等
	泉自治区防災訓練	・防災意識の醸成、救急救命講習等
	農業体験交流会	・地区内外の子どもと保護者を対象とした農業体験交流会
12月	泉の日	・12月3日を「泉の日」と制定、全住民で泉の維持・発展を願うとともに住民が地区づくりを自分事として意識する日
	泉八幡神社のしめ縄づくり	・本殿・神楽殿のしめ縄、門松づくり
1月	とんど祭り	・しめ縄、古いお守り、神札等を火でお焚きあげ、無病息災を願う伝統行事
2月	植樹活動	・梅(シンボルツリー)・桜の植樹

(3) これまでの取組

泉自治区では、「泉地域ビジョン」に記載された内容に基づいて令和3(2021)～令和7(2025)年度の5年間に様々な事業に取り組み、以下の取組みにおいては、一定の成果がありました。

表「泉地区活性化計画」に基づいて取り組んできたこと

区 分	内 容
泉コミュニティホームで常設の高齢者サロンの開設	・ 泉コミュニティホームにおいてふれあい合同サロンを定期開催
高齢者等が収入を得られる場づくり	・ 農業法人での臨時雇用等による収入増を実現
一人暮らし高齢者などに対する隣近所での見守り、相談支援	・ 地域での見守り体制の確認 ・ 社会福祉協議会と連携
有害鳥獣対策の強化	・ 農業法人と連携し、共同防護柵の設置、山裾の草刈り等を実施 ・ 三原市と連携し、有害鳥獣対策の広域的な連携体制を検討
遊休農地へのシンボルツリー植樹による特徴のある景観づくり	・ シンボルツリーを梅に決定し、植樹を開始
講習会の開催による伝統技術の継承	・ しめ縄づくりを通じた伝統技術を継承。

第2章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

泉地区の魅力・資源について、これまでの「泉地区活性化計画」や「泉地域ビジョン」に掲載されたものに、泉の未来を語るワークショップでの意見を踏まえて整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区分	地区の魅力・資源
自然資源・景観	<ul style="list-style-type: none"> ・自然（田、山、朝陽、夕陽）、美しい山並み ・田舎ならではの風景（きれいな田園風景） ・山並み、ほ場整備済みの水田と改良済みの市道等で構成される美しい田園景観 ・水良し・土地良し・気候良し、農業に適した自然豊かな泉の大地 ・天然水、空気がおいしい ・きれいな夜空（星がきれい） ・泉川 ・ホタル、ヒョウモンモドキ、コウノトリ ・メダカの里（ビオトープ） ・カブトムシ等の昆虫 ・眺望の良い場所（柳川池の土手、八幡神社広場等）
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none"> ・泉八幡神社 ・古墳 ・堀越城跡 ・郷土料理 ・古民家 ・伝統の祭りがある（行事（祭りなど）が受け継がれている） ・行事が賑わっている（楽しんでいる）
産業資源	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に活気がある ・ほ場整備済みの水田 ・農業法人がしっかり農地を守っている ・水がきれいで米、野菜がおいしい ・ほ場整備地区内のビオトープ（環境保全型水路） ・農家等で手づくりされている味噌等の加工品
近隣関係 ・生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人が親切で温かい ・住民がやさしい、まとまりやすい ・皆で助け合って生活している ・出身者が泉のことを気にかけ続けている ・（住民の）仲が良い ・空港、高速道路へのアクセスがよい ・運転しやすい道路 ・車で10～20分でスーパーマーケット、病院がある ・光ファイバー網が整備されている（ネット環境） ・リタイア後のUターン者がいる ・子育てに適した環境 ・泉コミュニティホーム ・八幡神社の広場 ・空き家

2 地区の問題点・課題

泉地区の問題点・課題について、これまでの「泉地区活性化計画」や「泉地域ビジョン」に掲載されたものに、泉の未来を語るワークショップでの意見を踏まえて整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区分	地区の問題点・課題
環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> ・冬は寒さが厳しい ・空き家が多くなってきている ・道路等の草刈り作業が大変 ・山が荒れていく
人材・担い手	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、少子化、人口減少が進んでいる ・農業の担い手の不足、見通しの不安がある ・組の役が早くまわってくる（人が少ない） ・人が少なくなって、活動維持が不安 <若者> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の減少（20～40代） ・町及び周辺に若者に魅力ある職場の不足 ・子どもの教育への不安 <子ども> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない、地区内の子ども同士の交流が困難 ・保育所、小学校がなく、大人と子どもが交流する機会の減少 ・子どもの遊び場の不足 ・中学、高校が遠距離、習い事の場所がない
高齢者等の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行 ・地区での人間関係等の難しさ、相談できる人がいない ・一人暮らし高齢者等の日常生活の不安（引きこもりがち、情報が伝わらない等） ・ゴミ出し（ゴミの分別及び収集日の忘れ、収集場所までの運搬） ・通院、買い物等の外出が不便 ・久井ふれあいバスが不便（回数、運行コース等） ・自家用車が運転できなくなった時の生活が不安 ・認知症、病気等で引きこもりがちな高齢者等への対応
近隣関係	<ul style="list-style-type: none"> ・昔（コロナ前）より人の集まりが少なくなった ・祭り等の各種の行事に「出る方」と「出ない方」がほぼ分かれている
農林地・農林業	<ul style="list-style-type: none"> <農業・農地> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等による有害鳥獣被害の拡大 ・高齢化に伴う農作業の担い手の不足 ・田の草刈りの困難化 ・農事組合法人の担い手の高齢化、将来の担い手の不安 ・地区の特産品不足 <林業・林地> <ul style="list-style-type: none"> ・竹が繁る等の山林の荒廃の進行と山林管理の担い手不足
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・車がないと移動が難しい ・バスの便が少ない ・買い物や医療施設利用が不便 ・空き家の増加 ・公共交通機関が不便

区分	地区の問題点・課題
地区活動・近隣関係	<p><近隣関係・地区内交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いの減少、地区に対する関心の希薄化 ・小学校が統合されたことで子どもの見守りがなくなり、子どもと高齢者の交流が減少 <p><行事・イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治区活動への参加意欲の低下、家庭優先の生活スタイル ・人口の減少と高齢化の進行に伴い、行事のスタッフ・参加者の減少 ・祭りへ若者が参加しない、若者との交流不足 ・子どもイベントへの参加が少ない（スポーツ活動等の行事で忙しい） <p><自治区の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人がいくつも役を持ち忙しい ・元気な高齢者の参加促進 <p><歴史文化の継承></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りの幟の建て方、八幡神社のしめ縄づくり、門松づくり、とんどの作り方（巻き方）等の継承の不安
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・泉コミュニティホームが利用しにくい ・県道、市道、林道等の側溝に落ち葉等がたまっている ・夜暗い

第3章 地域ビジョン

1 地区の将来像

本計画では、「泉地区活性化計画」策定時に掲げた地区の将来像を踏襲し、次のとおりとします。

<地区の将来像>

誰もが郷土を愛し、いきいきと支え合いながら暮らす「泉」

2 地区づくりの目標設定

(1) 目標設定

地区の将来像の実現に向け、次のとおり目標を設定します。

ア 新規事業数

当初基準値	現状値	目指す方向	目標値	備考
— (令和2(2020)年度)	4事業 令和7(2025)年度	増加	5事業 (令和3(2021)～ 12(2030)年度)	

イ 他団体との連携事業数

当初基準値	現状値	目指す方向	目標値	備考
— (令和2(2020)年度)	9事業 (令和7(2025)年度)	増加	15事業 (令和7(2025)～ 12(2030)年度)	

ウ 地区への移住者数

当初基準値	現状値	目指す方向	目標値	備考
— (令和2(2020)年度)	2人 (令和7(2025)年度)	移住促進	20人 (令和7(2025)～ 12(2030)年度)	・ 毎年1世帯、2～4 人の移住

エ 地区出身者との交流者数

当初基準値	現状値	目指す方向	目標値	備考
100人 (令和2(2020)年度)	75人 (令和7(2025)年度)	増加	150人 (令和12(2030)年度)	

オ 地区外からの来訪客数

当初基準値	現状値	目指す方向	目標値	備考
200人 (令和2(2020)年度)	300人 (令和7(2025)年度)	増加	500人 (令和12(2030)年度)	

(2) 人口の将来見通し

平成 17(2005)年から令和 2(2020)年の人口の推移傾向が継続した場合の人口を推計すると、地域ビジョン改定年次の令和 7(2025)年から 10 年後の令和 17(2035)年には 212 人になり、令和 7(2025)年と比較して 67 人減少するものと見込まれます。年齢 3 区分別人口をみると、年少人口(0~14 歳)は微増から横ばいで推移するものの、その他の年齢層は減少しており、高齢化率は約 52%でほぼ横ばいとなると見込まれます。

こうした状況に対して、総人口の減少はやむを得ないものの次世代の育成による地域の持続性向上を目標として、本計画で掲げる「若者・子どもが快適に暮らせる地区づくり」をはじめとする各種取組を推進します。その結果、毎年 30 歳代の夫婦・子ども 2 人の世帯 1 組が、過去 5 年間の動向より増加するものとし、令和 17(2035)年の総人口を約 256 人と設定します。

注：人口推計は、男女年齢別の過去の人口変化率を用いた方法により、(公財)中国地域創造研究センターが推計。

図 目標人口

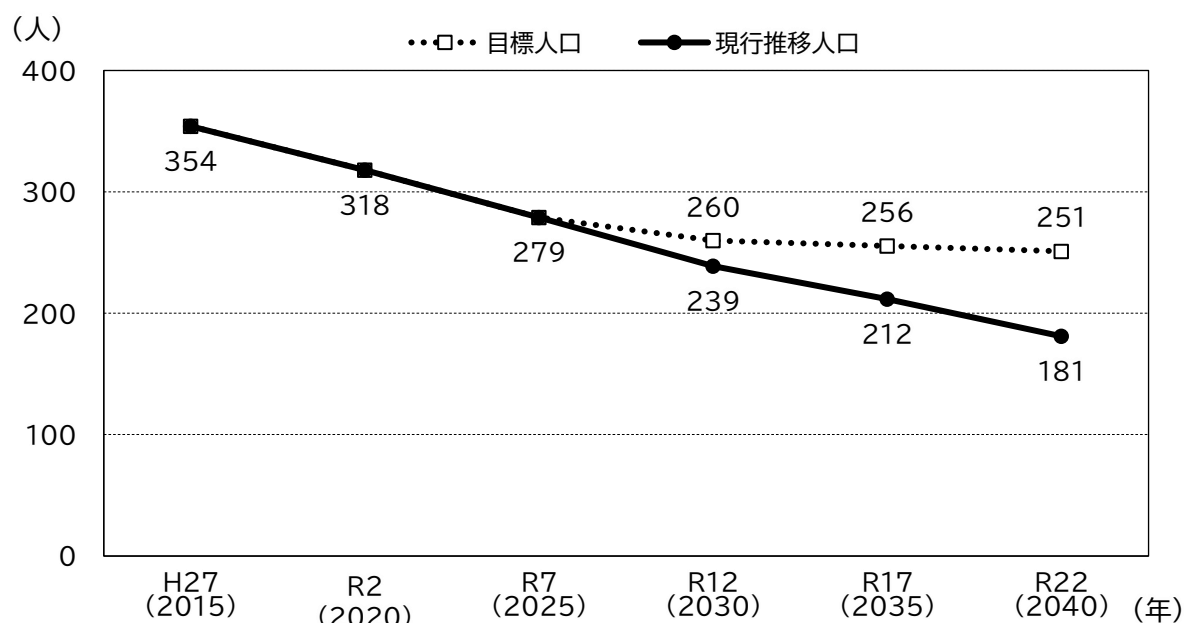


表 目標人口

区分	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和17(2035)年	令和17(2035)年 －令和7(2025)年
0～14歳	16	28	40	24
15～64歳	117	104	106	△11
65歳以上	146	128	110	△36
合計	279	260	256	△23

- 注-1:過去5年間の推移と比較して、毎年30歳代の夫婦と0～9歳の子ども2人の世帯が1組増加するものとした。
 -2:出生数は、国立社会保障人口問題研究所が示す将来の三原市子ども女性比(0～4歳人口/20～44歳の女性人口)を基に、令和7(2025)年3月末時点の泉地区の子ども女性と令和7(2025)年の三原市の子ども女性比の乖離率(泉地区子ども女性比/三原市子ども女性比)が将来的に一定と仮定し、令和12(2030)年以降の三原市の子ども女性比に前述した乖離率を乗じたものを泉地区の子ども女性比と設定し、各年の20～44歳の女性人口に乘じることで求めた。
 -3:令和2(2020)年、令和7(2025)年は3月31日現在の人口。

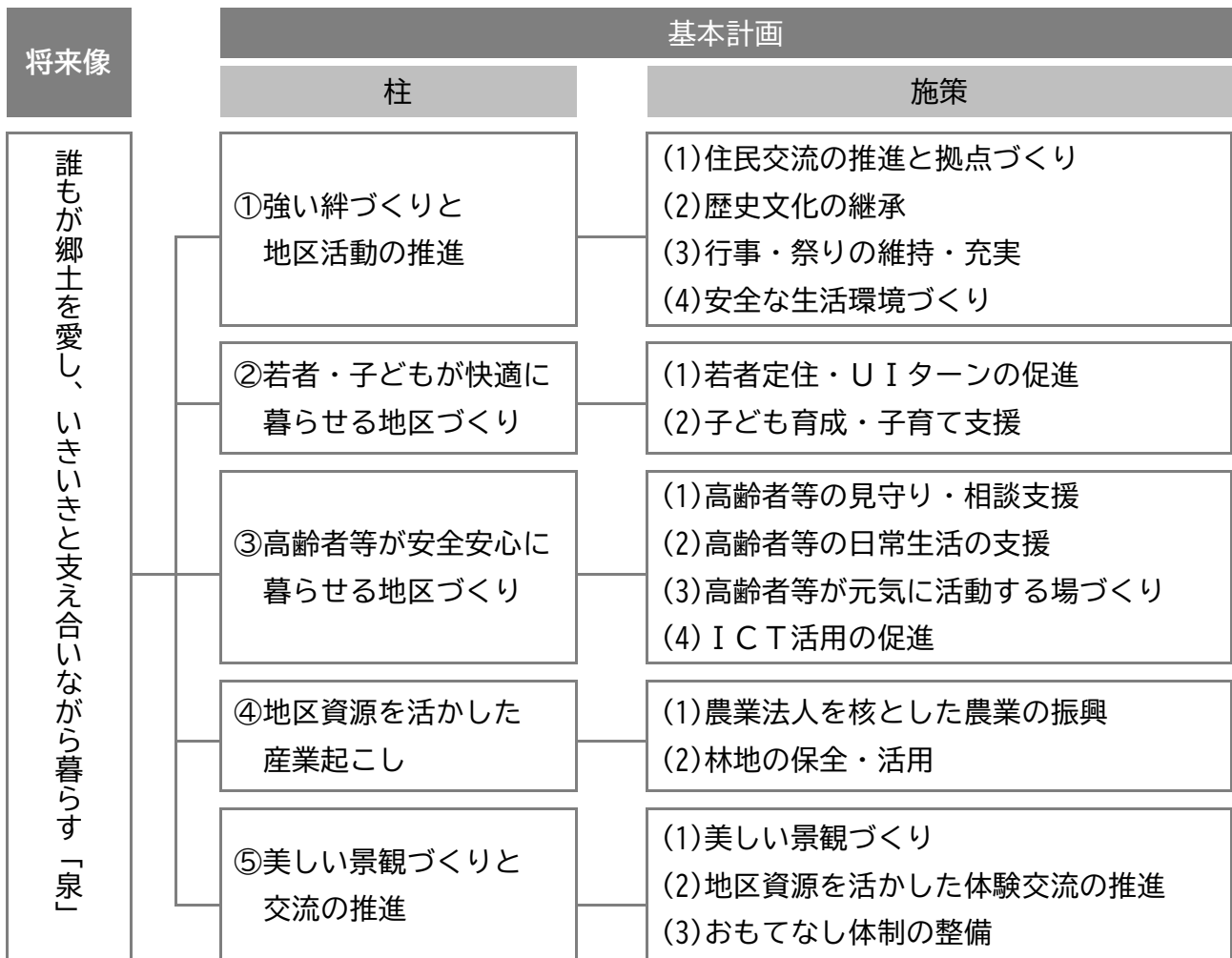
参考 現行推移の場合の将来人口

区分	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和17(2035)年	令和17(2035)年 －令和7(2025)年
0～14歳	16	17	20	4
15～64歳	117	94	82	△35
65歳以上	146	128	110	△36
合計	279	239	212	△67

3 地区づくりの体系

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地区づくりの体系



4 地区づくりの基本計画

地区の将来像を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取組を掲げます。なお、取組事項は「泉地区活性化計画」の内容を踏まえるとともに、泉地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）などにおける意見のうち、泉自治区をはじめとする各種団体及び住民が取組主体になる事項をとりまとめました。

① 強い絆づくりと地区活動の推進

人口減少や少子高齢化の進行による地域の縮小や、令和元（2019）年末からの新型コロナウイルス感染症の流行など、地区活動を取り巻く環境は近年大きく変化しています。こうした状況においても、これまで泉自治区で育まれてきた歴史・文化、人間関係などを基軸としながら相互に助け合いながら安全・安心な暮らしが続けられるよう、地域住民等の絆を強め、共助の意識を高める取組を推進します。

(1) 住民交流の推進と拠点づくり

【推進事業】

- 若者等の意見把握機会の創出
- 後継者（若者）との交流機会の充実
- 地域活動に参加する人の拡大
- 飲み会、カラオケ大会などの開催による住民相互の絆の強化
- 農村RMO※の導入に向けた検討

※ 農村型地域運営組織（RMO：Region Management Organization）。複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 郷土料理・農産物加工品などの講習会開催で次世代への継承 [令和3年ワークショップ]
- 子ども、若者、高齢者の世代間交流の推進（イベント開催等） [令和3年ワークショップ]
- 泉コミュニティホーム（西田記念館）の継続的な有効活用と施設の歴史の継承 [令和7年ワークショップ、]
- 若者（出身者）・高齢者それぞれの地域への思いを聞くイベントの開催 [令和6年住民アンケート調査]

(2) 歴史文化の継承

【重点事業】

- ぎおん祭りの踊り子の確保と踊りの継承

【推進事業】

- 地区に残る伝統行事の継承、昔話（民話）の伝承
- 講習会の開催による伝統技術（しめなわづくり等）の継承
- 高齢者の経験・知識の聞き取りによる歴史文化の継承
- 行事や伝統芸能の撮影・保存、様々な機会を通じて上映会開催

(3) 行事・祭りの維持・充実

ア スタッフ・参加者の確保

【重点事業】

- 地区内外からの行事・祭りへの参加者・担い手を増やす対策の検討
- 子ども、若者に魅力あるイベントづくりによる誘客の推進【②-(2)の再掲事業】

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- ワクワクするイベントの定期開催 [令和3年ワークショップ]
- お祭り等への地区外住民が協力できる仕組みづくり [令和7年ワークショップ]

イ 祭りの維持・充実

【推進事業】

- 住民相互、住民と出身者との交流の場となる祭りの維持・充実
- 泉地区全域を対象としたとんど祭り開催の検討

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- お祭り等への地区外住民が協力できる仕組みづくり [令和7年ワークショップ]（再掲）

ウ スポーツ活動の維持・充実

【推進事業】

- ウォーキング・サイクリングイベントの開催
- 地区運動会の復活の検討
- ウォーキングコースづくりとウォーキングを通じて交流の推進

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- スポーツイベントの維持・充実 [令和3年ワークショップ]

(4) 安全な生活環境づくり

ア 自主防災活動の推進

【推進事業】

- 個人の防災意識を高める啓発と学習機会の確保
- 定期的な訓練の実施と住民の参加促進
- 危険個所の確認、地区特有の危険個所の調査の実施
- 自主防災組織の計画の更新（防災行動計画化）
- マイ・タイムライン[※]の作成の推進

※ マイ・タイムライン：災害発生時に、自分や家族が「いつ」「誰が」「何をするか」を時系列で定めた防災行動計画のこと。事前に避難先、避難経路、避難のタイミングなどを確認し、具体的な行動を決めておくことで、いざという時に冷静かつ迅速に行動できるようになる。

イ 夜間の安全の確保

【推進事業】

- 防犯灯の生活道路等への増設

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 太陽光発電の外灯の設置による経費の軽減 [令和3年ワークショップ]

② 若者・子どもが快適に暮らせる地区づくり

地域の担い手が限られる中で、地域を次世代につないでいくためには、若者や子どもなど、新たな世代の泉自治区への定住化が必要になります。また、近年は、泉自治区と他地域を行き来して生活する二拠点居住者や、定住しない人でも、この地域に関心のある人が地域活動に加わる「関係人口」という人材の確保も進みつつあります。こうした地域で住みまたは交流しながら活動してくれる人材の確保を推進します。

(1) 若者定住・U I ターンの促進

ア 若者定住

【推進事業】

- 子ども・若者に対する親世代等から泉への居住の働きかけ
- 行政と連携して、若者定住を促進する支援方策の強化
- 若者等の意見把握機会の創出（再掲）

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 若者が集まるコミュニティスペースづくり [令和3年ワークショップ]
- リモートワークの推進 [令和7年ワークショップ]

イ 地区出身者との交流

【推進事業】

- SNSでの情報発信による地区出身者の帰省やUターンの促進

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 地域イベントに合わせた同窓会等の開催による帰省しやすい環境づくり [令和7年ワークショップ]

ウ U I ターン促進

【重点事業】

- 移住者と地区住民の交流会の開催

【推進事業】

- 泉の魅力的な暮らしのHP、フェイスブックなどで発信
- 二拠点居住者の地域活動への参加促進
- 移住希望者への住宅、生活ルールなどを紹介、相談員の配置

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 移住者支援体制と地域住民との程よい距離感の構築 [令和6年出身者アンケート調査]

エ 空き家の活用

【推進事業】

- 空き家調査の実施、空き家のデータ更新
- 空き家所有者に対するアプローチ実施による空き家バンク登録促進
- 空き家活用ワークショップの開催
- 空き家を活用して移住する人に対する各種支援制度の周知

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 空き家相談に対応する空き家コンシェルジュ（案内人）の配置 [令和3年ワークショップ]

オ UIターン情報の発信

【推進事業】

- 地域の魅力、住宅、仕事などの移住情報をSNSなどで発信

(2) 子ども育成・子育て支援

【重点事業】

- 子ども、若者に魅力あるイベントづくりによる誘客の推進

【推進事業】

- 子どもへ泉の自然、産業、歴史文化などを伝える郷土愛の育成
- 地区の親子が集い、気軽に遊ぶことができる場の維持・充実
- 保護者と子どもに魅力あるイベントづくり

③ 高齢者等が安全安心に暮らせる地区づくり

地区人口が大幅に減少する中で、高齢化も急速に進んでおり、高齢者等が安全で安心して暮らせる環境づくりが重要となっています。高齢者等を支える担い手も限られていることから、隣近所での気配り等による見守りを基本としつつ、新たな技術を活用し、高齢者のICTの活用支援を図りながら、自治区も含めた関係主体による見守り体制の構築を目指します。

(1) 高齢者等の見守り・相談支援

【推進事業】

- 一人暮らし高齢者などに対する隣近所での見守り、相談支援
- 関係主体の連携による定期的な訪問の実施

(2) 高齢者等の日常生活の支援

ア 移動の支援

【推進事業】

- 久井町乗合タクシーはなさく号の利用促進
- コミュニティバスの利用促進

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 市町境を越えた公共交通手段の確保検討

イ 買い物の環境の確保

【推進事業】

- 移動スーパー（とくし丸等）、生協等の訪問型買い物手段の利用促進

ウ ゴミ出しの支援

【推進事業】

- ゴミ分別表の配布、ゴミ分別の講習、資源ゴミ回収などの支援

(3) 高齢者等が元気に活動する場づくり

ア 高齢者サロンの充実

【重点事業】

- 泉合同サロンの内容の充実による参加者の拡大

【推進事業】

- 3B体操、銭太鼓、大正琴などなどの各種活動の維持・充実

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 子どもとの交流を行い、昔遊び、伝統芸能などの伝承 [令和3年ワークショップ]

イ 高齢者等の生きがい活動の推進

【推進事業】

- 健康づくり、生涯学習・スポーツ活動の場の整備、活動の充実
- 高齢者等が収入を得られる場づくり

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 経験・知識を活用した特産品、郷土料理づくりの推進 [令和3年ワークショップ]

(4) デジタル技術など新たな技術活用の促進

【推進事業】

- ウェアラブル端末など高齢者でも利用しやすいデバイスを活用した見守りの導入検討
- 高齢者等に対するパソコン・スマホなど新たなデバイス利用の普及、勉強会の開催

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- オンラインによる見守り、診察、情報提供などへの活用 [令和3年ワークショップ]
- 防犯カメラ等を利用した遠隔での見守りシステムの検討 [令和6年出身者アンケート調査]
- 地区内全域で携帯電話はつながってほしい [令和6年出身者アンケート調査]

④ 地区資源を活かした産業起こし

泉自治区は、古くから農林業を中心に発展し、様々な文化を育み、魅力的な地区資源を数多く有しています。しかし、農林業の担い手不足や鳥獣害の拡大などにより、地区の基幹産業の衰退が懸念されています。地区資源を保全・活用し、地区の活力を維持していくためには、基幹産業である農林業を、産業として持続性を高めるとともに、関連する新たな事業の創出を推進します。

(1) 農業法人を核とした農業の振興

ア 担い手の確保、育成と農地の保全

【重点事業】

- 農事組合法人への地域おこし協力隊員の受け入れを含む、若い正職員の雇用働きかけ・運営体制の強化
- 農事組合法人等を軸とした将来の地区環境及び農地の保全、農業振興の検討

【推進事業】

- 若者向け農業イベントの開催による農業への関心の醸成
- 元気な高齢者を農作業に活用する仕組みづくり
- 農業に関心のある大学生の支援（農繁期）を受ける体制づくり
- 多様な新技術等を活用したスマート農業の導入による効率化・高付加価値化
- 農村RMOの検討（再掲）

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 農業研修の場の提供による農業の担い手の確保、育成 [令和3年ワークショップ]
- 遊休農地を活用した貸農園づくり、農地オーナー制度の導入 [令和3年ワークショップ]

イ 有害鳥獣対策の強化

【推進事業】

- デジタル技術等を活用した有害鳥獣対策の推進
- 地区を挙げての有害鳥獣対策チームの設置（三原市鳥獣害対策実施隊との連携）
- 地区外からの応援の働きかけ（草刈り等の人材、資金等）
- 共同防護柵の設置、山裾の草刈り等の推進
- 有害鳥獣対策の広域的な連携体制の確立

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 草刈り専門集団の設立 [令和7年ワークショップ]

ウ 特産品の開発と販売の促進

【重点事業】

- 農産物などの一層のブランド化の推進（赤しそ、米・酒米など）

【推進事業】

- 農産物の多様な販売ルートの開拓（地域企業等との連携強化）
- 連携した特産品づくりとふるさと納税返礼品登録でPRの強化

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 移住者等が生産・作成する産品・サービス等の販売促進支援
- 農産物加工品を製造する手作り工房の設立・運営 [令和3年ワークショップ]

(2) 林地の保全・活用

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 拡大している竹林の伐採と竹炭づくり [令和3年ワークショップ]
- 竹に関わるイベント（竹灯ろう祭り等）の企画・開催 [令和3年ワークショップ]
- 間伐材の活用に向けた地区を挙げて薪ストーブの導入の検討 [令和3年ワークショップ]
- 山林を活用した野外レクリエーション施設の整備の検討 [令和3年ワークショップ]
- 山林整備による山菜の里づくり [令和3年ワークショップ]
- 山林を舞台としたイベント開催と山林管理への関心の醸成 [令和3年ワークショップ]

⑤ 美しい景観づくりと交流の推進

泉自治区では、田園や里山など、人手が入ることで守り続けられた風景が、人々の安らぎとなる景観を形成しています。しかし、地区人口の減少や空き家の増加等により、これまで守られてきた美しい景観が崩れ始めています。泉自治区らしい美しい景観を守っていくため、保全と交流等を通じてより多くの人々が地区の自然環境を楽しみ、地域住民や出身者の誇れる景観の維持を推進します。

(1) 美しい景観づくり

ア 地区環境の保全の推進

【推進事業】

- 草刈り、清掃などの維持・充実
- 草刈りの省力化の検討（草刈り面積の縮小、草刈り機の導入）
- メダカの里の管理の維持・充実

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- ヒョウモンモドキ・ホタル・コウノトリ等の希少種の保護と環境整備 [令和3年ワークショップ、令和6年出身者アンケート調査]
- 草刈り専門集団の設立 [令和7年ワークショップ]（再掲）

イ 美しい景観づくり

【重点事業】

- 遊休農地へのシンボルツリー（梅）植樹による特徴のある景観づくり
- あぜ焼きアートづくり
- 泉を印象付けるイルミネーション・プロジェクションマッピングの実施

【推進事業】

- 八幡神社、泉コミュニティ広場、道路、河川周辺の花木の植栽
- 農地の畦畔への芝桜の植栽

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- きれいな星空を楽しめる環境づくり [令和7年ワークショップ]
- カエルの鳴き声など、地区や自然を感じる音の保全 [令和6年出身者アンケート調査]

(2) 地区資源を活かした体験交流の推進

ア 自然資源の活用

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- カワニナの養殖、魚の復活などによるホタルの里づくり [令和3年ワークショップ]
- わらび、ゼンマイ、つくし、タラの芽等の山菜採り体験の提供 [令和3年ワークショップ]
- 昆虫（カブトムシ、クワガタ）採集イベントの開催 [令和3年ワークショップ]
- キャンプの受け入れ（ミニキャンプファイア・焚火体験） [令和3年ワークショップ]

イ 農業資源の活用

【推進事業】

- 自治区と農事組合法人が連携した農業体験受け入れ体制の整備

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 環境保全型水路を水遊びできる場、観察の場として整備 [令和3年ワークショップ]
- 農産物加工体験の提供 [令和3年ワークショップ]

ウ 地区の行事・祭りの活用

【重点事業】

- SNSなどを活用した泉地区のイベント・観光交流情報発信の強化

(3) おもてなし体制の整備

ア 魅力的な体験コースづくり

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 資源を活かし、来訪客層、季節に応じた体験交流の場の提供 [令和3年ワークショップ]
- 他地区と連携した広域的なコースづくり [令和3年ワークショップ]
- 自然探勝、民芸品・料理の手づくりなどの様々なコースづくり [令和3年ワークショップ]
- 来訪客に郷土料理の提供や特産品を販売できる体制づくり [令和3年ワークショップ]

イ 宿泊施設の整備

長期的に検討・実現が望まれる取組み（将来の夢事業）

- 民泊受け入れ、古民家を活用した宿泊交流施設の整備 [令和3年ワークショップ]
- 空き家を活用した農地付き貸別荘の設置の検討 [令和3年ワークショップ]

ウ 観光・交流情報の広域的な発信

【重点事業】

- SNSなどを活用した泉地区のイベント・観光交流情報発信の強化（再掲）

5 計画の推進体制

(1) 計画の周知、取組への参加の働きかけ

各種団体の会合などで「泉地域ビジョン」の周知を行い、住民一人ひとりの地区づくりへの当事者意識を醸成するとともに、地区づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画推進体制の確立

「泉地域ビジョン」を実行する体制を次のように確立し、各種事業の実施に取り組みます。

ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

- ・「泉地域ビジョン」の実行にあたっては、本地区にお住まいの方すべてに自治区加入を促し、それぞれの状況に合わせた自治区活動への参加と協力のもとで、取り組みます。
- ・また、泉自治区と農事組合法人が中核となって本ビジョンを推進するとともに、泉地区の各種団体と連携して取り組むこととし、それぞれの団体へ幅広い人材の参加を働きかけます。
- ・近年は、地域住民の価値観の多様化とともに、就労地域の広域化や定年延長など、多くの人が地域活動に関わりを持ちにくい環境にあることから、泉自治区や農事組合法人への女性、若者の参加を促進するため、それぞれの価値観や生活スタイル等を考慮しつつ、同世代の横の結びつき、若い世代の多い消防団、保護者会及びPTAなどを活用した参加の働きかけ、会議の開催曜日・時刻への配慮などによる参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・地区の人材、事業所などの得意分野を整理したリストを作成し、地区づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの参加、講演会の開催、先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

イ 地区外の個人、団体との連携の強化

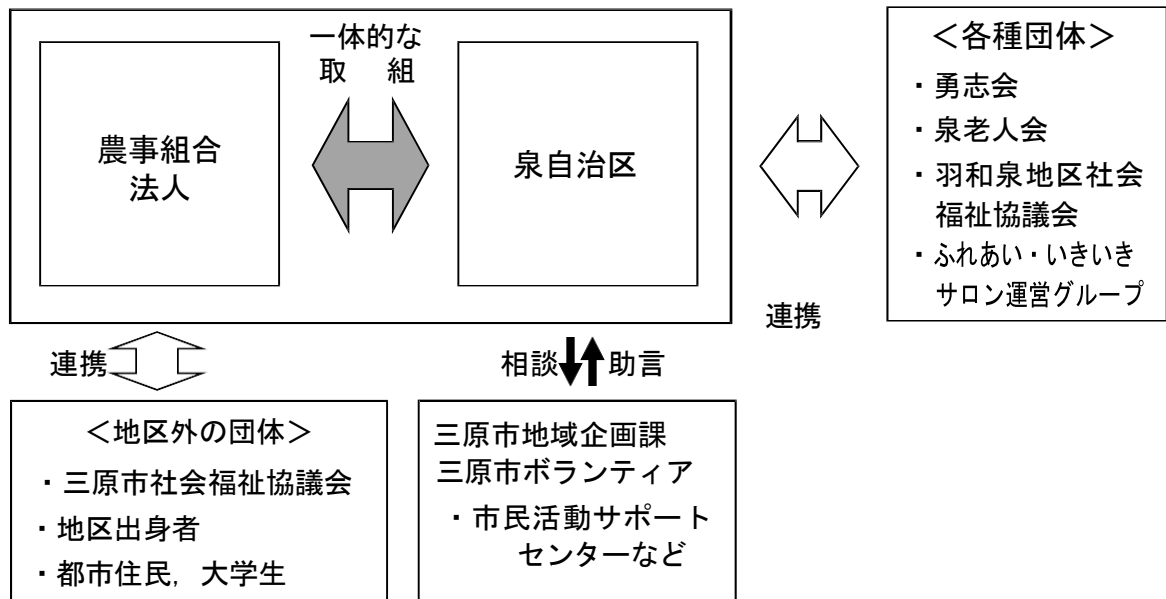
- ・三原市や三原市ボランティア・市民活動サポートセンターなどと連携し、まちづくりへの助言、専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け、地区づくり活動の活性化を図ります。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者の生活支援、UIターン促進、観光・交流、情報発信等）へ効果的に取り組むため、他地区との連携を強化します。
- ・地区外の団体との連携を強化して地区づくりへの応援を受けるとともに、地区出身者、都市住民、大学生などに対して、地区行事への参加や地区づくりへの応援を働きかけます。

ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため、収益事業の導入を積極的に検討するほか、国、県、市などの支援制度の活用を図ります。

- ・特産品開発、観光・交流事業をはじめとする収益事業については、農事組合法人を母体として事業の実施に取り組みます。

図 泉地域ビジョンの実行体制



(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内への情報の受発信

- ・地区情報が住民一人ひとりに周知徹底できるように、回覧板を通じて情報周知の徹底、泉自治区掲示板及び泉自治区だよりの充実のほか、ケーブルテレビの告知放送の活用に取り組みます。
- ・若者世帯に対しては、泉地区のホームページ、フェイスブックをはじめとするSNSを活用した情報の受発信に取り組みます。

イ 地区外への情報の受発信

- ・今後も泉地区のホームページ、フェイスブックをはじめとするSNSなどを活用し、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力や活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家情報などを発信の充実を図ります。
- ・各種団体、個人のホームページ、フェイスブックをはじめとするSNSなどを通じて、地区外の知人・友人などへの情報発信を働きかけます。

ウ 人材の確保・育成

- ・泉地区のホームページ、フェイスブックをはじめとするSNSを管理、活用できる人材を確保・育成し、タイムリーな情報の受発信体制を強化します。